

ここから少し話が変わりますが、銀行のお話を少しだけいたします。これは日銀の旧松山支店でございます。設計は長野宇平治、彼は日銀の技師でして、全国各地に建物を建てております。

この建物を巡ってはその保存運動が1984年に起こりました。愛媛におけるおそらく初めての市民による建築保存運動ではなかったかと思えます。代表を務めたのは松村正恒でございます。彼は60代でこういうこともやっておりました。



旧日本銀行岡山支店（岡山市）

これも先ほどの長野宇平治設計の日銀の旧岡山支店です。保存されて使われております。もし、松山支店も残っていたら、きっと町角の中でもっと輝いていたのかもしれない。そのほか、豫州銀行（現、伊予銀行八幡浜支店）は清水組が造ったものとして八幡浜の歴史を飾っております。



豫州銀行本店（八幡浜市）

いよいよ、愛媛の戦後モダニズム建築についてご紹介していきます。特に戦後のものについては、新しい価値観創造に基づいて造られた作品群が結構愛媛県には多く残っております。有名建築家のものもある。ただ、竣工後50年近くを経て、あるいはそれを超えていて存続を問われています。その価値については真剣に考えざるを得ない時期に来ていると思われます。

既に壊されたものですが、写真は西条市の体育館です。坂倉準三という有名な建築家の作品です。昨年春に壊されました。内部はこのように吊り屋根の天井で、とても

上等なものでしたが、長い間放置されていてとうとう壊さざるを得なかったということです。



旧西条市体育館

それからこれは少し変わっているのですが、現役の旧広見町（現、鬼北町）役場庁舎です。レーモンド設計事務所が昭和33年に設計したものです。議場には、ステンドグラスがはめられております。写真では見えにくいのですが、HPシェル構造という独特の構造で屋根が造られております。このようなものが鬼北町に残っておりまして、これを保存、使用するというようになっております。同じレーモンドの手による東京女子大のチャペルなどと似たような雰囲気になっています。



旧広見町役場庁舎（鬼北町）

そして、丹下健三の今治市庁舎、公会堂、市民会館。3つがセットですけれども、都市計画的な視点から造られ、市民のための広場、建物だということを強調していることが分かります。

そのほか、西条市には浦辺鎮太郎設計の栄光協会、民芸館のモダニズムの建築がございます。



今治市庁舎・公会堂（今治市）